

TURN 01

淫魔 が 生まれた 日

カレン「ちょ、ちょっと、あんたいきなり何してんのよ！」
C.C.「言ったろ？ 契約をするためだ。ほら、お前も早く下を脱げ。」

け…契約って
何をするのよ…

契約自体は
別に何もすることはない
だが契約するには
互いの外皮以外の部分を
接触させる必要がある

…こじりかなろう？

お勧めはしないって…
こじり…？

そんな訳では無いが
別にどう捉えて
もらっても構わない
好きに捉えろ

どうする？やめるか？
力が欲しいのなら
私の気が変わらないうちに
契約してしまった方が
いいと思うがな

カッぱ



や...やるわよ...
力を得るためなら
なんだってやってやるわ!

そこなくてはな

それじゃ早速
女性器をもっと
しっかり開いて
もらおうか

フッ

えっ!
あ...嫌っ...

がざがざ



早いな
もうぐちよぐちよぐちよじゃないか

はあ
はあ
な...何よ...
あんただって...

そうだな
私も大分ノッてきた
そろそろ本格的に
始めようか

あっ...いや...
ちよっとまっ...
あっ...ああああん!

ハッハッ

どろりっ

ぐちよ

ぐちよ



…ッ…
うっ…はっ…
あう…

はー
はあ

どつだ？
気持ち良いだろう？

ナイトメアに乗っている時は
勇ましいお前も
こうなってしまうは
かわいいものだな

は

はあ

やだ…
ちよつと…そんな…
あ…あ…あ…

んあ…あひい…
し…C.C…あなた
ちよつと上手すぎ…

クスッ

クチュ

クチュ

ズチュ

ビクッ

カレン
お前もそろそろ脱いだらどうだ？
この分だと遠くないうちに
汁まみれになってしまうぞ



ハハッ

ハア

あ...あはあ...
あん...ああ...

だ...ダメえ...
き...気持ちいい!

あう...ああ...
もう駄目...
いっっちゃう
イッちやいそう...
あ...あああ...

ハア

ハー

そっだな
私もそろそろ良い感じに
なってきたところだ
一緒にイクとしようか

ビクンッ

クチュ

クチュ

ッ...あ...あ...もうダメ...
あ...あ...あ...
あ...あ...あ...

ビク

ビク



あっ...んあああ...
んはああん!

ドピュッ

グチュウ〜
グチュ

ビクンッ

ハア
ハア

ハア
ハア



ほらよこれで
お互い汁まみれだな

ドピュン

グチュ

グチュ

ドロ~

ドロッ

ハア
ド
ド

ハア
ははは

ハア
ハア

ハア
ハア

ド



そっぴゃ契約って
どうなったの？
こゝこれで完了なの？
何も変わった気が
しないんだけど…

はっ！

おお すまんすまん
あやうく忘れるところだった
それじゃ始めるぞ

けりっ

えっ？
こゝれからー？

とろ〜ん

C. C. 「これで契約完了だ。」

カレン 「えっ？ もう良いの？ 始めてしまえばあっという間なのね…」

C. C. 「そうだな、そんなものだ。」

カレン 「ねえ、思ったんだけど。もしかして、イクとこまでする必要は無かったんじゃないの？ それどころか、よく考えると口と口でも良かったんじゃない…」

C. C. 「意外に賢いな、気が付いたか。」

カレン 「C. C. …あんたわざと…」

C. C. 「まあそう怒るな、お前だって、それなりに楽しめただろう？」

TURN 02

絶 对 淫 欲

- C. C. 「ギアスの使い方や大まかな効力は契約時に頭の中に流れてきたイメージの通りだ。実際にどの程度の効果を発揮するかは試して確かめるしかない。」
- C. C. 「まあ、アッシュフォード学園にでも潜り込んで学生どもにでも試してみたら良いだろう。制服を着て、軽く変装でもしていけば問題なかろう。」
- カレン 「そうね、そうしてみる。」
- C. C. 「しかし、お前の得た能力、なかなか笑えるな。周囲の人間の性欲を増強させる力…さしずめ「絶対淫欲の結界」と言ったところか。」
- カレン 「笑えるってね、まさか、あんたがこんな能力になるように仕向けたんじゃないでしょうね？」
- C. C. 「残念ながら、能力の内容を決めることは私にはできない。ギアスの能力は契約者が心の中で一番望んでいる願いによって決まる。カレン、お前はそういう女だったっていうことさ。」
- カレン 「そ、そんな…私こんなこと望んで何か…」
- C. C. 「はははっ、何を恥ずかしがることがある。その能力、私は好きだぞ。」

カレン「それはそうと、ルルーシュのギアスと区別する為にも、何かこの能力に名前が欲しいんだけど。」

C. C.「そんなもの必要なだろう。区別する必要があるときは「絶対淫欲の結界」とでも言えば良からう。」

カレン「それが嫌だっていってんのよ。い…淫欲とか…は…恥ずかしいじゃない…」

C. C.「ははっ、かわいいな。一部の人間にしか話さないこととはいえ、人前で淫欲淫欲というのは恥ずかしいか。」

カレン「そうよ！だから、カッコ良い呼び名が欲しいのよ！」

C. C.「そうだな、それじゃ絶対淫行圏」

カレン「大して変ってないし！」

C. C.「ハーレムメイカー」

カレン「ハーレムってのが直球すぎて…」

C. C.「メイカーオブエデン」

カレン「悪くないけど、微妙に言いにくい。後もうちょっと攻撃っぽいのがいいわね。」

C. C.「ヘヴンリーストライク」

カレン「それも悪くないけど、ちょっと長くない？」

C. C.「贅沢なやつだ。それじゃ私はネタ切れだ。後は自分で考えろ。」

カレン「え～、もっと一緒に考えてよ。まっ、ヘヴンリーストライクで良いか、ヘヴンリーって略せばいいしね。」

カレン「それじゃ、今から私のギアスはヘヴンリーストライクってことで！ 変な呼び方しないでよ！」

C. C.「はいよ。それじゃとっとと、そのヘヴンリーストライクを試しに行ってこい。」

カレン 「C. C.に言われて、勢いで学園に制服で潜り込んで来たのは良いけど…。さて、どうしよう…迂闊に変に人目につく訳にもいかないし…」

シャーリー 「あれ…？ もしかして、カレン？」

カレン 「！？ シャ…シャーリー」

シャーリー 「やっぱりカレンね。今までどうして…」

カレン 「しー！ 静かにして、あまり人目につきたくないの。ちょっとこっちへ。」

シャーリー 「え！？…あ…う…うん…」

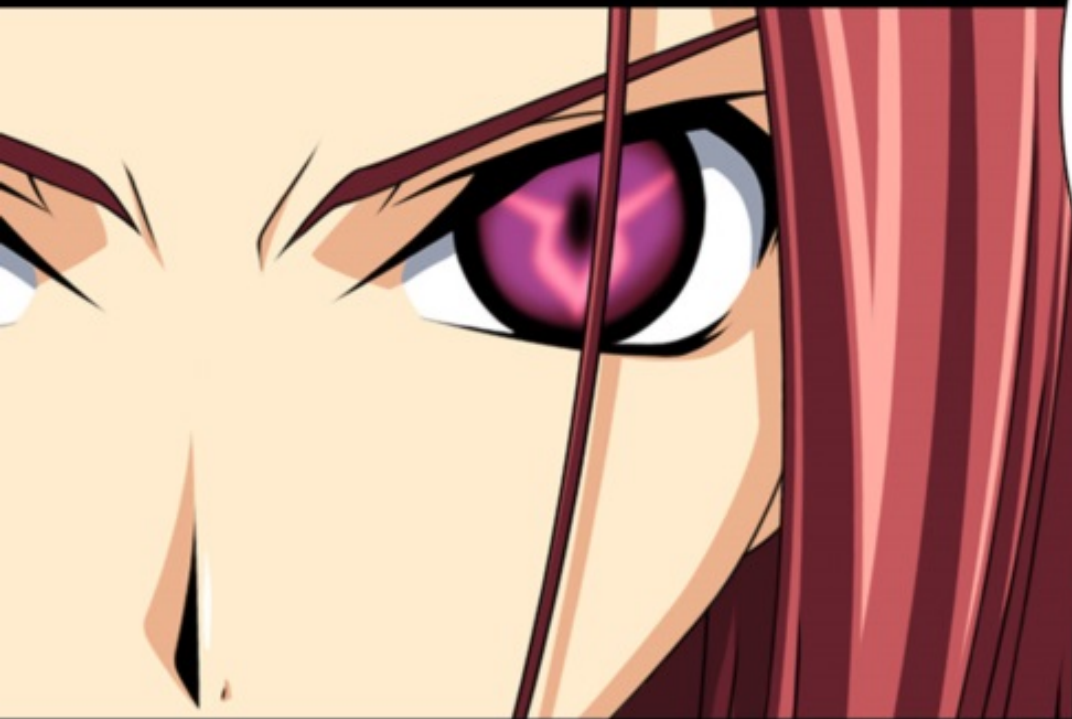
カレン
あなた今までどうしてたの？
なんかテロリストだ
って言われてるけど…
本当なの？

ごめん…シャリー
今は話せないの…

それより
あなたにお願いがあるの
絶対に迷惑はかけないから
お願い
ちよっとの間私に付き合っ

えっ…あ…
うん…良いけど…

ありがとう
それじゃ遠慮なく
試させてもらっわね



広がれ
ヘヴンリーストライク！

ピキーンッ

えっ！ な…何？
っん…急に体が…
あっ…あっ…ああ…

どじっ？
どんな感じ？

ど…どんなって…
ああ…嫌…
駄目…こんな…
カレンの前で…
ああ…んあああ…

だ…駄目…
我慢できない…
きゅ…急にアソコが疼いて
お…オナニーしたくて
したくて…あっ…あああ…

はぁ

はぁ

はぁ

か…カレン…
私に何かしたの？
私どうなっちゃったの？
あなたの前でこんな…

大丈夫よ
あなたはどうにもなってないわ
それより このままだと
制服が汚れてしまうんじゃない？
我慢できないんでしょう？

ビクンッ

ビク

ビク

…あ…あう…
そ…そうね…
脱がなくちゃ…
し…下に
水着来て来るし…

はぁ

はぁ

はぁ

ああ…あああ…
もうおまんこがぐちよぐちよに…
や…嫌だ…水着…シミになっちゃう…
ああ…でも駄目…気持ち良くて…

か…カレン…
助けて…
私のおまんこ…
おまんこを…
あっ…ひああん!

水着のこころが邪魔なのね
私が切って開いてあげるわ

ビク

じわ～

ビク

あら もう大洪水ね
私も手伝って
あげましようか？

ハア

ハア

ハア

ハア

うん…お…お願い…
カレンも手つだって…
わたしの…私のおまんこを
弄って…弄くりまわして
私をイカせてえ！

それじゃ
たっぷりと弄ってあげるわ

ほらどっこ？
気持ち良い？

どろ〜ん

ドロ
ドロ
ドロ

ひああ…い…イイ…
あっ…ああっ
あう…イッちやう…
イッちやう…
あ…あっ…あああ…

はああああん!
で…出る…
どんどん出ちゃう…
と…止まらない…
ひああ!

ハア

ハア

ハア

ハア

ドドド

ブジャ

ピュン

だら〜

はははっ
良いイキっぷりね
シャーリーでも
まだまだこれからよ!

あひい…ひうう…
ああ…はああ…気持ちいい
きもちいいのお
もっともっとしてえ〜！
キモチイイこと
もっ…モット…！

ハア

ハア

ハア

ハア

だら〜

だら〜

ああ…ちんこ…
チンポが欲しいい！
誰か！誰か居ないの？
私のマンコにチンポいれてえ！

ぐちゅ

ぐちゅ

だら〜

ああ…あああ…
もう何でもイイ…
あう…はう…
はひい…はうあ…

はひい…ていんぽ…
びんぽ…おまんこひいて…

ハア

ハア

ちんぽの
おまんこの様ね…

まさか
ここまで強力とは…
この子がこんな
なるなんて…

くちゅ

くちゅ

たら～

はあ…はあ…
それになんだか私まで
気持ちよくなつて…

TURN 03

諸刃の剣

カレン「はぁ…はぁ…私、どうしてシャーリーにあそこまで…ちょっと反応を見て
みるだけのつもりだったのに…」
カレン「それに…何…この感じ？ まさか…ギアスで私まで性的に興奮状態になっ
てるってこと？ シャーリーみたく酷いことにはなっていない様だけど…」
カレン「と、とりあえず場所を変えて…」



あ…アソコが…あ…あつ…
こ…この感覚は…やつぱり…
この能力…他より効果は薄い
とはいえ自分にも影響を
及ぼすのね…

確かに自分も
効果の範囲内に
いる訳だから
当然と言えば当然だけど…

とりあえず
ギアスを解いて
これ以上性欲を
高めないようにしなさいと

ヒッ

ヒッ

じわ～

はぁ

はぁ

はぁ

あつ…ああん…だ…駄目…
今さらギアスを解いても
ここまで高まった性欲を
抑えきれない…

はあ

はあ

はあ

はあ

くちゅ

くちゅ

ドロ〜リ

あつ…や…嫌だ…
もうここ…こんなになってる…
この快感には逆らえないし
この場で一度イカないと
おさまらないか…





あつ…あふつ…はああ…
場所と状況のせいかしら
いつもより余計に感じて…
あ…ああ…んああ…
こ…これならすぐにイケそう…

くう…き…きた…
あ…あ…あつ…ああつ…
あああああ…

くちゅ
くちゅ
ビクンッ
びくっ びくっ

はあ
はあ
はあ
はあ



はああああん！

ああ…嫌っ…
こんなに…
こんなにいっぱい…
あんまり出したら…
オナニーしてた形跡が
残っちゃうのに…

で…でも…でも…
はああん！
…き…気持ちいい！

ドロ〜

ドロ

ドロ

ハア
ハア
ハア

C. C. 「ギアスの使い勝手はどうだった？」
カレン 「思った以上に強力ね。効果の内容はあれだけど、かなり使いそうだね。かかってしまえば、もう性的欲求を抑えられないようだから、オナニーを始めた相手をやりたい放題ね。」
C. C. 「そうか、それは良かったな。」
カレン 「効果範囲は私を中心に約半径5m、壁越しには影響を与えない様けど、遮蔽物がなければ、私が知覚しているしていないにかかわらず効果はあるみたい。効果は強烈だしギアス開放中は背後から襲われることもなさそうね。」
C. C. 「ほほう、それはある意味無敵の領域だな。」
カレン 「そうなんだけど…欠点が…。多少だけど効果が自分にも及ぶ…」
C. C. 「相手をよがらせて自分もよがるか。はははっ、やはりお前は面白いな。」
カレン 「馬鹿にしてんの？」
C. C. 「褒めてるんだよ。」
カレン 「それをどうとったら褒めてるように聞こえんのよ！ まあいいわ、それよりこの力をどう使うか考えないと…」
C. C. 「そのことだが、近々、学園でちょっとした祭りの様なものがあるそう。そこにラウンズも2名ほど遊びに来るらしい。また潜り込んで、その力を使って捕らえてきたらどうだ？」
カレン 「ふふっ、いいわね。その案、使わせてもらうわ。でも、また制服で行くのはちょっと危険ね。」
C. C. 「そうくるとおもって、変装用の衣装を用意しておいてやったぞ。」
カレン 「C. C. あんた気がきくわね。それじゃ、それを使わせてもらうわ。」

TURN 04

最強の騎士

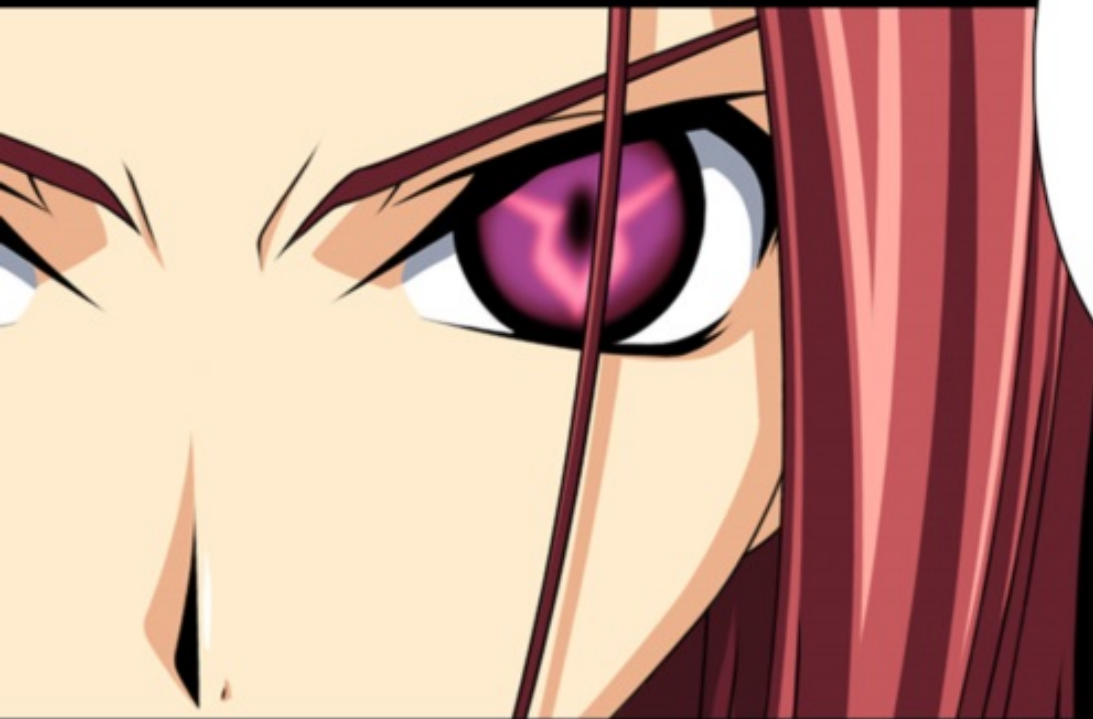
カレン 「変装用の衣装って…ただのパニーじゃない…C. C. を信じた私が馬鹿だった…」

カレン 「まあとにかく、来てしまった以上これでやるしかないわね…」

カレン 「って、あれは…確かラウンズの一人ナイトオブシックス アーニャ。ついてるわね、こんなに早く目的の一人に会えるなんて。」

カレン 「そこのあなた、帝国最強の騎士ナイトオブラウンズの方ですよね？」

アーニャ 「…そうだけど…なにか用？」



それじゃ
ちよっと私に
付き合ってももらえませんか？

…あなたに付き合っ
てく
暇はないわ…

それは
オナニーがしたくて
たまらないからですよ？

…初対面の相手に
そのセリフ…あなた
変態というやつね…

珍しい…
き…記録に取っておいて…
…あっ…ああ…

変態はあなたの方でしょう？
こんなところでオナニーを
始めてしまうのだから



う……うう……
あ……あ……あ……

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

かぱっ

こんなところで
おまんこ丸出して
はぁはぁ言ってる
気持ち良い？

さすが帝国最強の騎士
ナイトオブラウンスの一人ね
他人とやるのが違うわ



はようん

はあああらん!
はう...あひ...あひいい!

はあ

はあ

はあ

はあ

ぐちゅ

ぐちゅ

はようん

気持ち良くイケたみたいだけど
まだ終わりにじゃないわよ

はぁ

はぁ

どろ

はぁ

はぁ

あつ…あう…あひい…
ああ…んあ…
い…いつまでこんな…
ん…んくう…

どろ

どろ～ん

いつまで？
そうね あなたが正気を
保てなくなるまで
かしら

あう…はう…オナニー…
オマンコ…キモチイイ…
あぐ…あが…

はははっ
ブリタニアの犬がいいさまね

今のあなた 珍しいから
私が代わりに記録して
おいてあげるわ
後でじっくり御覧なさい

あひい…ああ…
オナニー…オモイデ…
キオク…キロク…

べと〜

ん〜ん

ハア

ハア

ハア

クヤ〜ん

パシヤ

どうやら
気を失ってくれたようね

この続きは
騎士団領に戻ってから
たっぷりしてあげるわ

TURN 05

勝利の美酒

カレン「はぁ…はぁ…」

カレン「ははっ、ははははっ。まさか、こんなにうまくいくなんてね。いける…いけるわ！ この力をつかって一人ずつ確実に潰していけば…いつの日かブリタニア自体を潰すことだって！」

カレン「って…あ…あぁ…アソコが…あう…はぁあ…」



うっ…あぁ…
と…とりあえず…
自分のこども
なんとかしないと
ならなかったわね…

この能力
強力なのはいいんだけど
自分の性処理が厄介ね…
あっ…あぁん…
ま…まあこれはこれで
気持ち良いから良いと言えは
良いんだけど…

くちゅくちゅ

じわ〜

はぁ

はぁ

はぁ



あっ...いや...
こんなんじゃないケない...
くっ...ダメ...もっと奥まで
こねくり回さないで...

あああん もう
このパニーの衣裳が
地味に邪魔ね

ぐちゅ

グチュグチュ

はあ

はあ

はあ

はあ



こんな衣装
破いてしまっても
問題ないわよね…

あふ…あはあん！
気持ち良い！

はあ
はあ
はあ
はあ

あ…あ…あっ…あふうん！
はふ…あふ…あああ…
そろりそ…イキそう…
あっ…あっ…あああ…



びちょ〜ん

ンああああん！

…あふう…はうあ…
まだちょっと物足りないけど
お…大方おさまったわね…

ハァハァ
ハァハァ
ハァハァ

カレン「さてと、正気を取り戻す前に、とっとこのラウンズを連れ帰って、さっきの続きをしてあげないとね。」

カレン「この力を使ってやるべきことも決めたいし、これからは、今まで以上に忙しくなるわね。」

TURN 06

性 隸 調 教

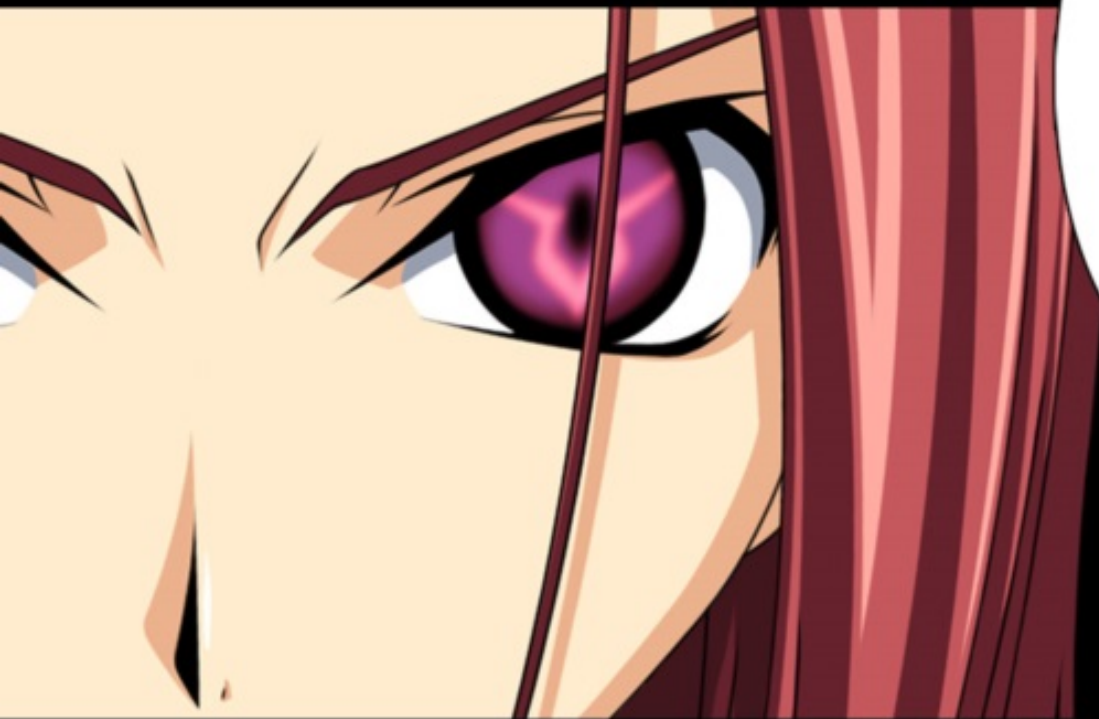
…私を捕らえても
人質にはならない…
何もしゃべる気もない…

…なら…
さっさと殺せば…?

残念だけど
まだ殺しはしないわ
あなたには
黒の騎士団の役に立って
もらわないとね

でしょうね
でもね
ラウンスが一人かければ
その分ブリタニアの
戦力も士気も下がる





駆けめぐれ
ヘヴンリーストライク！

ピーキーン

あっ……あぁ……
これは……あの時の……

はぁ

はぁ

はぁ

みっちり調教して
立派な性奴隷に
仕上げてあげるわ

うう…ああ…
…こ…こんな…
あつ…あう…あぐ…

ギッ

ギシ

はあ

はあ

はあ

はあ

ギッ

ギッ

ん…あぐ…ああ…
うう…うう…

ギッ

この前の様に
自分で慰めることも
出来ないからね

はあ…
はあ…

今回は最初だし
ちよっと可哀そうだから
良いものを貸してあげる

たら～

ギッ

ひゃう！
あっ…あっ…あぁ…
あはぁん！

ギシッ

はぁ

どっ？
気持ち良い？

お望みなら
中で激しく動かすことも
できるんだけど？

ハア

ハア

はぁ

ギシッ

ああ…あふう…
き…気持ちイイ…
う…動かして…
は…はやく…早く！

ギシッ

何？ 聞こえないわ
もっとはつきり
どうして欲しいか
お願いしてくれないと
わからないわ

ギシ

…お…お願いします…
私のお…おまんこに
入っているものを
は…激しく動かして
私をイカせて下さい…

ズブッ

最初から
そう言えは良いのよ

ほら
思う存分堪能なさい

どう？ 気持ち良い？
いたぶられてるのに
感じちゃう？

ギジツ

ギジツ

ググググ

ずぶん

ずぶん

ウイイ

ハア

ハア

ギジツ

ハア

ハア

ハア

ああああ…
あぐ…あが…
はあん！あん！
はああん！

あ…あ…あ…
い…良いです…
気持ち良いです…
か…感じちゃいます…

あふ…あが…ああ…
い…イッちゃう…イッちゃう…
あ…あ…ああ…あああ…

あうあああああ！

ハア

はぁ

はぁ

ハア

ハア

はぁ

ははははっ
随分たっぷり出したわね
そんなに気持ち良かった？

でも まだでしょう？
まだ満足できないでしょう？

あ…あう…あああ…
あっ…んあああああ…

ヘヴンリーの絶対領域に
いる限り
あなたは延々とあえぎ
イキ続けるのよ

ぐちゅ～

ドロ～リ



お…オマンコ…ください…
何でもシマス…
お願いシマス…
ワタシを…ツカッテ…

ラウンズといえど
こうなってしまうはかわいいものね

後はさんざん使い倒して
ポロ雑巾のように捨ててあげろわ

カレン「全て順調、予定通り…いや、それ以上だわ。」

カレン「一度ヘヴンリーの絶対領域に捕らえてしまえば、たとえ抜け出しても高まった性欲は簡単にはおさまらない。ヘヴンリーの効果で行った行為でも、覚えた快感は効果が解けても忘れはしない。」

カレン「一度でもヘヴンリーの絶対領域に入った者は、全てひれ伏す。」

カレン「はははっ 無敵だわ！」

カレン「見てなさい。世界はこの紅○カレンが裁く！」

TURN 07

暴

走

カレン「はぁ…はぁ…とりあえず、もうアーニャは大丈夫そうね。
これだけ、快感を覚えさせておけば、もうギアスは必要
ない。後はじっくりと…」

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

そ…それにしても
は…早く…
効率よく自分の性処理を
する方法を見つけないと
ならないわね

…いつまでも
こんなことをしていたら
私まで性欲の虜に…
あっ…ああ…

そろそろ限界ね
へヴンリーを
解かなくちゃ…

あ…あれ？
か…解除できない…
あぐ…ああつ…

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

解除しているはずなのに
性欲増強の効果が止まらない…

くちゅ

くちゅ

どんどん気持ちが高ぶって…
ああ…あつ…嫌っ…
あああ…そ…そんな…
こ…このままじゃ…

嫌だっ…
もうここ…こんなに…

はぁ

ハア

はぁ

ハア

カパッ

ぐちゃ〜

と…とりあえず
一回イケば…きつと…
あ…ああ…あぐ…んあ…んああ…

早くイッて
能力を解かないと…
あう…ああ…い…イケそう…
あ…あつ…んあ…あああ…

んああああん！

ハア

ハア

ハア

ハア

ハア

ドピュッ

ビクッ

ビクッ

うぐうぐき…気持ち良い…
一杯でちやう…
あう…はう…あうあああ！

あ…あれえ？
と…止まらない…
一回イッてもダメなの…？

あつ…ああ…んああ…
嫌だ…どうして？
なんで止められないの？
このままじゃ私…

あ…あう…ああ…んああ…
嫌だ…イッたばかりなのに
また…あ…ああ…ああ…
ああ…ああ…

ドロ〜

ぐちゅ

ぐちゅ

ハア

ハア

ハア

ハア

ハア

はああああん！

ハア

ハア

ハア

ハア

ハア

べちょ〜

ブシァァァ

何なのこれ…
私のギアス…どうなっちゃったの…？

もし このまま
ギアスが止まらなかつたら…
嫌！嫌だ！私どうなっちゃうの？

あう…あぐう…
嫌だ…ダメ…
イツてもイツても
おさまらない…

ど…どうしよう…
このままじゃ…私…わたし…
あっ…ああ…ああ…

ドロッ

ドロロ

ハア

ハア

アヒッ

ハア

アハ

嫌だ…そんなの…
止まって
止まってよ
止まってるばー!

ブジュー

ドクドク

ドロッ

ドロッ

だ…誰でも良い…
誰か助けてよ!
し…c.c…
ルルーシュ…
ママア!



はひ…あは…
もう良いや…
もう…コノまま…
き…きもひいヒ…
ずっと…こうやつへ…
アヒッ…ハフ…アハア…

アヒッ

アへ

アハ

オマンコ…
オマンコキモヒイ
アフ…アへ…アハ…
ヒヤ…ヒヤイコウ…

TURN 08

陰謀の影

カレン「！？ あ…あれ？ 確か…ギアスが止まらなくなって…」
C. C.「やっと気が付いたか。」
カレン「し…C. C. 私どうなってたの？」
C. C.「嫌な予感がしたので、ラウンズの調教の様子を見に行ったら、お前がギアスを開放したまま倒れていたのな。ここに運んでおいた。」
カレン「そ…そうだ、ギアス！ ヘヴンリーストライクが止まらなくなって…」
カレン「あ…あれ？ 止まってる…」
C. C.「ギアスの暴走だな。」
カレン「…暴走…？」
C. C.「ギアスの力が高まってくると自分の意志では止められなくなる。それが暴走だ。一度そうになってしまえば、もう元には戻らない。」
カレン「え？ でも今は…」
C. C.「ギアスを止めるためのコンタクトだ。お前が気を失っている間に付けておいた。止まらなくなったお前のギアスを防いでくれる。ギアスを使う時はそれを外せ。」
カレン「ねえ、これって特別なものなの？」
C. C.「その通り、それはスペシャルだ。先に言うておくが入手経路は詮索するな。そして、渡せるのはそれ一つきりだ。失くすなよ。」
カレン「わかったわ。」
C. C.「とりあえず、今はこれで防げるが、しかし、お前のギアスが今よりも強くなったら…」
カレン「覚悟はしておくわ。でもそうなる前に、ブリタニアとはケリをつけてやるわ。」



でそれはそれでこの拘束具は何？

ああそれはお前が欲求不満の状態で目覚めて暴れられても困ると思つてな

ギョッ

まあそういうなほらこれで良いだろ？

はあ？何言つてんのよ！嫌よ！外してよ！

そつするつもりだったがちよっと気が変わった

それじゃもう大丈夫だから外してくれる？

折角だからこのまま少し楽しんでいかないか？

ジャラン

ギョッ



ちよ...ちよっと...
そのコンタクトを
外されたら...
あ...あ...

ほら
ここが良いんだろう？
どうだ？ 気持ち良いか？

あっ...はう...ああん！
や...やめてよ
私ごういづの
好きじゃないのよ
あんたみたいな変態と
一緒にしないでよ

助けてくれた恩人を
変態呼ばわりか？
最低だな

それとこれとは
話が別よ
あっ...駄目...やっ...

ジャラン

ギョッ

はなはな

グッグッ

ギョッ



体は正直だな
口では嫌だといっても
ここはもう
こんなになってるぞ

あ...あ...そ...そんな...
しょうがないじゃない...
ヘヴンリーの効果の中
こんなに弄くりまわされたら...
誰だって嫌でも...
ああ...ああん!

要するに
気持ち良くなっちゃったから
このまま続けてください
というごとな

何でそうなるのよ!
嫌だって言ってるでしょう
これ以上されたらもう...
んあ...ああ...

我慢は体に良くないぞ
ほら この辺はどうだ?

ずちゅ

ギョッ

ギョッ

はあ

はあ

ジャラン



ジャララ

ギジッ

はぁ

はぁ

ハア

ハア

あひいー!
だ…ダメ…あ…
や…あぐ…あああ…

や…やめ…はう…あぐ…
あ…あひ…はひ…
もうらめ…イッちやう…
イッちやう…
あ…あ…ああ…

そうか
ここが良いのか
そらそら

もう限界か
いいぞ
イッてしまえ

ずぶん

ギジッ

ずちゅずちゅ



ジャラララ

はぐう

ギシッ

はああああん!

はははっ
良いいきっぷりだな

どぴゅん

ギシッ



ね…ねえ…
もう良いでしょう…
解放して…
じゃないと私また…
あ…んあ…あああ…

何を言っている？
これからだろう？

お前が何度もイッて
ひいひい言う姿を見るのが
楽しいんじゃないか

まあそう言っ
たさで、そろそろ
私も服を脱いで
気分を出すとして

ちょっと…あなたね
人をもてあそぶのも
いい加減に…あひい！
あ…あぐ…や…やめてよ…
だ…ダメだ…

ははっ

とーとー

じゃぶ

じゃぶ

ジャラ

ハァ

ハァ

ハァ

ハァ

ギョッ

ギョッ



ジャラララ

ハア

ギョッ

あああゝゝ
らめえゝやめてえゝ
またイツちやう…
またイツちやう…

今度は私も
ぶっかけていこう
ぞびぞび

ははっ

ハア

ハア

ハア

あ…あ…あ…
ああ…あああ…

ずぶっ

ずぶっ

ギョッ



ジャラ

ハア

ギョッ

あひいー!

も……もっらめ……
き……きもひりゃって……
もっ……好きにして……
おまんこ……オマンコ……
もっ……キモチよくひて!

ずびゅん

じゃぶ

じゃぶ

ギョッ

ジャララ

ハッ

ギョッ

ああん!
きもひい...きもひい...
あふ...アハ...
お願い...このままずっと
やめないでえ!

ははははっ
あんなに嫌がっていたのに
今度はおねだりか

カレン お前のギアス
ヘヴンリーストライクといったか
本当に良いギアスだな
これは色々と楽しめそうだ

アハ

アッ

ハッ

じゃぶ

じゃぶ

じゃぶ

ギョッ



カレン「ったく、C.C.のやつ、助けてくれたのはありがたいけど、その後が最悪ね…」

カレン「そういや、こんなギアス止めのコンタクトを用意してること、ギアスが暴走するかもしれないって知ってたことよね。知っててわざと私に話さなかったってこと…？」

カレン「あいつ……」

TURN 8.5

水着 捕虜

玉 城「よう、カレン、捕えたラウنزズの女の子のことだけど、いつまでも裸ってのもなんだから、借り物の衣裳を着せておいてやったぜ。」

カレン「また…余計な事を…。で、どんな衣装を着せたわけ？」

玉 城「ほらこれだ、なかなか似合ってるだろ？」

…衣裳って…
ただの一昔前のスクール水着
じゃない…あんだ…
そういう趣味なわけ？

はあ…いいわよ
好きにしないさい ただし
念のため拘束は解かないでよ

別にいいだろ なんだってよ
それよりさ
せっかくだからちよっといいしつ
いたずらしてやってもいいか？

ああ
わかっているって

ギシ

ギシッ

ギシッ

ギシッ

ギシ

やっぱり
こういうのはこうだよな
股のところが
切らせてもらっせ

一度こういうやつ
やってみたかったんだよな
気持ちよくしてやるから
このままイクとこも
見せてくれよな

はははは
わっわわ断然良っせ

あ……あっ……はう……
ああ……はああ……

ぱかっ

ギシ

ギシッ

ギシッ

ギシッ

ギシ

もうだいたい
濡れてきたな

ギシッ

はぁ

はぁ

ギシ

はぁ

ギシッ

あう……あぐ……ああ……
あふ……あああ……

あにゃ

どうだ？
カレン何かができるより
ずっと良いだろう？
俺はこう見えて
指で女をイカすのが
上手いんだぜ

あひ……あぐ……あが……
あつ……あつ……あつ……
ああ……ああ……

たら～ん

ギシ

ギシッ

はああああん！

ハア

ハア


ハア

いぼたニ

いぼたニ

ははっ
もうイツちまいやがったか
やっぱ俺様のテクの前では
ラウンズもかたなしだな

いぼたニ



汚れた水着は
洗っといてやるぜ

また暇になったら
遊びに来てやるよ
そんじゃまたな

玉 城「カレン、お前あれ、どんな調教してるんだよ。何もしゃべらねーし抵抗もしないから、なんかこう物足りない感じがするぜ？」

カレン「別にあんたの趣味に合わせてるわけじゃないからね。変なセリフべらべらしゃべられても、うっとうしいだけでしょ。」

玉 城「いや、だかさ、そこはほら男のロマンがな…」

カレン「まっもう少し様子見たら、あんた達にまわしてあげるから、そうなったら、色々教え込むなり、なんなり好きにきなさい。」

玉 城「おお、本当か？ そんじゃ期待して待ってるぜ。」



んあゝあつゝあつゝ
やだゝ私こんな
うろゝんあうゝ
どんどんでちゃう
んくうゝあひいゝ

おい きさま
これはいったい何の真似だ？
一緒にと言ったではないか
もうちょっと待てるのか

人をこんなにどろどろに
しておいて
そのセリフは何だ？
それじゃこちらも思う存分
ぶっかきさえてもらおうぜ

ドロ～

ドロ

ドロ

ピュン

グチュウ～

グチュ

グチュ

げゝ限界だつて
言つたじゃないゝ
あんたが
合わせてイキなさいよ！
ああゝやだゝ
止まらないゝ
はあん！

TURN 09

調教の果て

玉 城「カレン、そういや、捕らえたラウンズの女はどうしたんだ？ 調教がすんだら、俺たちにまわしてくれるんじゃないのか？」

カレン「あぁ、そのことだけど、悪いわね。ちょっと予定を変更して団員達にまわす前に、学園で騎士団の資金調達に協力してもらってるのよ。」

玉 城「はぁ？ 学園で資金調達？ 何やらせてんだ？」

カレン「監視カメラで様子が見れるわよ。」

何せお尻に
100円

はあ

はあ

はあ

はあ

ちょｗｗ
カレンおまえｗｗ
何これ？ｗｗ
何やらせてんだよｗｗ

てか
資金調達なのに
一回百円でｗｗ
安過ぎ！ｗｗ

くちゅ

くちゅ

黒の騎士団はね
庶民の味方なのよ

はあ

カレン「それより、ちょっと協力して欲しいことがあるんだけど、
上手くいけば、あのラウンズよりもっと面白いやつをあ
てがってあげられるわ。」

玉 城「ん？ 何だ？ 面倒なことじゃなければ協力するぜ。」

カレン「それじゃ頼んだわよ。」

玉 城「ああ、まかせとけ。」

TURN 10

絶対

カレン

領域

C. C. 「お前から私を呼び出すとは珍しいな。こんなところで何の用だ？」

カレン 「この前はよくもやってくれたわね。あんたには感謝してるけど、ちょっとだけ仕返しをさせてもらおうわ。」

C. C. 「この前？ ああ、あの拘束プレイのことか？ それなら、単にお前を気持ち良くさせてやっただけじゃないか。仕返しされる覚えはないぞ。」

カレン 「そうね、言い方が悪かったわ。この前のお返しに私もあなたを気持ち良くさせてあげるわ。」

カレン 「私のギアス、ヘヴンリーストライクを使ってね。」

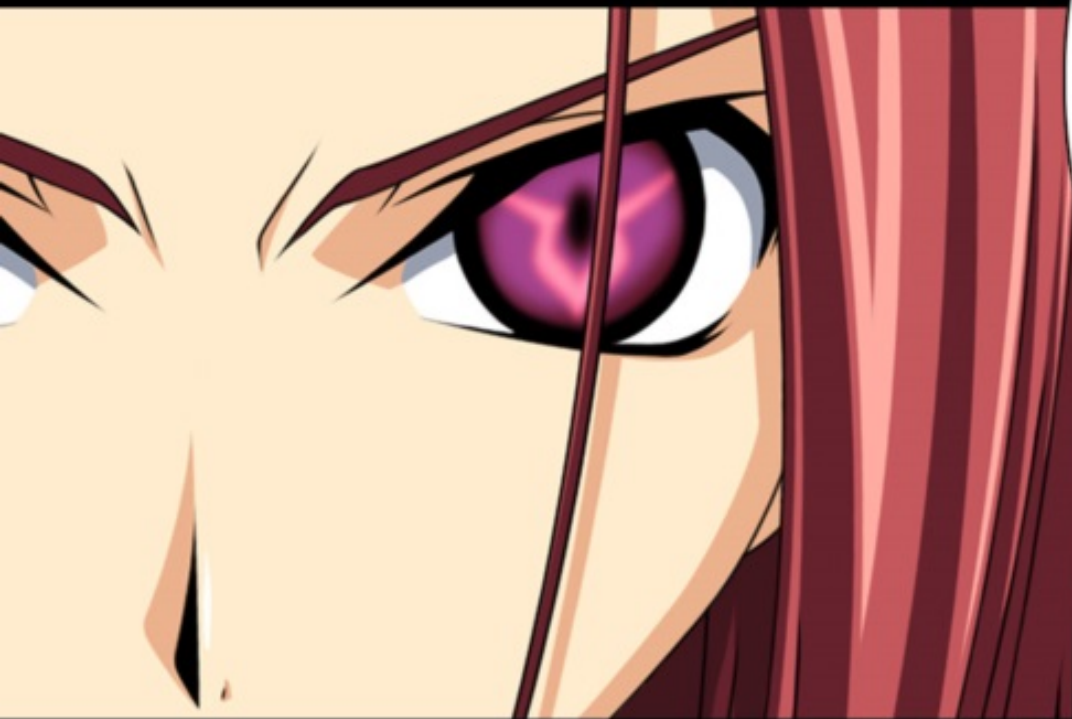
C. C. 「今さら言うまでもないとは思うが、私にギアスは効かないぞ。」

カレン 「知ってるわ。でも、普通に捕らえてもてあそぶことなら出来るでしょう？」

玉 城 「お、いたいた。カレン、言われた通り適当に男どもを集めて来たぜ。」

カレン 「たとえ直接ギアスが効かなくても、大人数の中、ヘヴンリーストライクの絶対領域に入れば同じこと！ 思いっきりヤラれなさい。」

C. C. 「そういうことが…」



荒れ狂え
へヴンリーストライク!

カレン「さぁ、みんな最上級の肉壺よ。好きにして良いわ。思う
存分貪りなさい！」

男 達「ははっ、ゼロの女だ！こりゃ楽しめそうだぜ！」

C. C. 「く…こら、よせ貴様ら…」

お前たち
こんなことを私にさせて
ただで済むと
思っているのか？

何も問題ねえだろ？
なんせ
親衛隊長様の
お墨付きだからな

それになんだかよ
俺達やりたくやりたくて
我慢できねえんだよ
悪いがおさまるまで
付き合ってもらおうぜ

そんなもってよ
いきなりで何だが
な…中に出してもいいか？
お前のここ気持ち良すぎて…
う…うう…

ズブッ

ズブブ

ちよっと待て…
お前…早すぎるだろ…
しかも中とか…や…止める…

……うう……きさま……
後で覚えておけよ……

悪いな
一人で速攻イッチまっつて
でもよ
何か俺まだピンピンだから
まだまだいけるわ
お前もしっかりイカせてやるぜ

おいやってんだ
何やら
ほら
腰だけじゃなく
しっかり手も
動かしてくれよ

わかったよ
しっかりやってやるよ
一人一回づつだぞ

ぎゅっ

はぁ はぁ

ぎゅっ

だーらー



びゅん

びゅん

すけ

はぁ

はぁ

じゅ

ほら
これで良いだろ
一回イッたら
次のやつに代われ
キリがない

それと
股下のやつ
いい加減次に代われ
お前とはもう飽きた

じゅ、ふ

じゅぽ

…く…まだいるのか…
もういい加減にしてくれ…

はぁ

はぁ

ぐちゅ

はぁ

はぁ

ぐちゅぐちゅ

じゃぶ

じゃぶ

悪いな
ちよつと集めすぎちまったからな
それより
もう服がべとべとだな
汚いから脱げよ

ふう…これで一通りだな…
やっと終わるか

何言ってるんだ？
終わりじゃないぜ
最初に言ったろ
俺達がおさまるまでってな
まだみんなピンピンだぜ？

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

お前ら…
私の体力のことも考えろ
いい加減こゝまでにしてくれ

なんだ？
疲れたってんなら
寝ても良いぜ
股の穴だけ勝手に
使わせてもらおうわ

どうあってもやりたいようだな…
まあヘヴンリーの絶対領域内では
しかたあるまいか…
良いだろう
こうなったらとことんやってやるよ

はぁ

はぁ

ぐちゅぐちゅ

ドンパ

はぁ

ドピュ

ほらほら
どうした？
折角だから
私を満足させてみる

ぐちゅぐちゅ

こんなんじゃ
全然足りないぞ
もっと出せ
ついでに私もイカせる

ズブッ

ズブッ

あ…あぁ…
はははっ
良いぞその調子だ

ハア

ハア

ぎゅぎゅ

ブシヤ

ブシュ

ハア

ぐりゅりゅ

ズチュ

ズチュ

あ…あつ…あぁ…
良いぞ…私もノッてきた
本番はこれからだ

C. C. 「ん？ なんだ？ もう終わりか？」

男 達 「……………」

C. C. 「そうか、カレンがヘヴンリーを解いたな。性欲増強の効果が切れるとともに、疲れ果ててダウンというわけか。」

カレン 「はぁ…はぁ…C. C. …あんた…どんだけタフなのよ…」

C. C. 「長く生きていると色々あるのだよ。」

C. C. 「それより、ヘヴンリーを解いたということは、お前自身の性欲がそろそろ抑えきれなくなってきた、ということだな？」

カレン 「…はぁ…はぁ…」

C. C. 「気持ち良くイキたいだろう？ 丁度私もまだやり足りないところだ。2人で続きを楽しもうじゃないか。私の部屋でな。」

TURN 11

凋

落



なんだお前 抵抗できないほど
ここをこんなにぐちよぐちよにして
はぁはぁ言ってるくせに
いまいち ノリ気じゃ無いようだな

言ったでしょう
私はあんたみたいな
変態じゃないのよ

要するに また
こいつを外せばいい訳だ

ちゅ...ちゅ...ちゅ...
ちゅ...ちゅ...ちゅ...
ちゅ...ちゅ...ちゅ...

くちゅ
くちゅ

はぁ
はぁ
はぁ

くちゅ

ほら どうだ？
また性欲が高まって来たか？

んっ…あぁ…
嫌…嫌…あ…あぁん！

い…嫌よ…誰がそんなこと
…んあ…あっ…あっ…
あぁあ…はっ…はぁあ！

もともと限界だったんだ
イカせて欲しくて
たまらないんだろっ？

ほらほら
私にお願いしてみたらどうだ？
気持ちよくイカせてやるぞ

ぐちゅ
ぐちゅ

ぐいぐい

ハァ

ハァ

ハァ

あ...あぐう...あふ...
あがああ...イ...イッちやう...
イッちやう!

おっと危ない危ない
今はここまでだ
お前はまだ
私にイカせて下さいって
お願いしてないだろっ?

ピタッ

はははっ
良い子だ

...お...お願い...
ど...どうか私を
気持ち良くイカせて下さい
お...お願いします...
は...はやくう!

続けてほしかったら
言う言葉があるだろっ?

そ...そんな...「おまじ」
や...やめないでよ...

ハア
ハア
ハア
ハア
ハア

ちょ…ちよつと
何してるのよ…
は…はやく…早くして
私をイカせてよ!

すまんすまん
お前はまたどうせ
飛ばしまくるだろうから
先にちよつと
服を脱いでおいた

そんなの良いから
早くしてよ!

それじゃ
お望みどおりイカせてやるよ

あ…はあ…あ…ああ…
あっ…あっ…きもちいい
きもちいい…
あーああーイケる…
イッちやう…イッちやう…
ああ…ああ…ああ…ああああ…

ははは

ハア

ハア

ハア

ぐちゅ

ぐちゅ





ははははは

ハア

ハア

はぐ

ハア

はああああん!

そひんらんらん
どんどん出させてやるぞ

あふあはあが
あーあー止まらない
どんどん出ちゃう
あーあーあー

はははっ
相変わらず良いイキっぷりだな
カレン してもらって感じるか?
もてあそはれて感じるか?
奇められて感じるか?
お前相当なマゾだな

ドバアアア

ドピュ

ドピュ

こんなもんじゃ
まだまだ足りないだろう？
わかってるよ さあ
もう一度お願いしてみる

し…C.C.様
どうかお願い致します…
も…もう一度私をイカせて下さい

もう
私を尻にはめちゃうなどは
考えないな？

よし 良い子だ
ご褒美に一度と言わず
何度でも好きなだけ
イカせてやるよ

は…はい…もうしません
謝ります…許してください
ですから
もう一度…もう一度
私をイカせて下さい…
お願いします

どろ～ん

ふふふ

ピタッ

ピチャ

ピチャ

ハア
ハア
ハア



はひい…あひい…あはははっ
きもひい…もっ…もっ…
おねかいひます…

はははっ 大丈夫か？
ろれつが回らなくなって
きているぞ

らいりゅうびねす…
それより
もっ…もっ…

いいだろっ
約束通りいへばま
してやるよ
お前が果てるまで
しっかりとな

ははは
ははは
ははは
ははは

ドピュ
ドピュ
ぐりゅぐりゅ

C. C. 「おい、カレン、起きろ。ほら、目を覚ませ。」
カレン 「あ…あれ？ 私また…」
C. C. 「気が付いたか。気を失うまでやった後、ギアス止めのコンタクトを戻しておいた。」
C. C. 「お前、さっきまでやっていたこと、言ったことは覚えているな？」
カレン 「え…ええ…まあ一応…」
C. C. 「それじゃ、言ったことを忘れないためにも、しばらくは、この首輪を付けておけ、もうこの私に逆らわないという証しだ。」
カレン 「そ…そんな…」
C. C. 「なんだ？ 不満か？」
カレン 「わ…わかったわよ…」

TURN 12

願

い

自らのギアスに負け、C.C.に屈伏したカレン。仕掛けた抗争に負けるということは、それ相応の報酬を受けることとなる……

カレン「はぁ…はぁ…あっ…あぁ…い…いつまでこんな……」
C.C.「決まっているだろう？ お前が反省するまでだよ。」

機分はどうだ？
カレン

はぁ

はぁ

はぁ

さ…最悪よ…
し…C.C…
も…もう許して…
あっ…あっ…

駄目だな
お前は私に対して
感謝することを知らない
もう少しこうやって
反省してろ

そ…そんな…
この前のことなら
すぐに謝ったでしょ？
それにあなただって
私をもてあそんで
楽しんだんだから
おあいこじゃない

はははっ
おあいこか
よく言うよ
まあいい
それじゃこいつは
外してやるか

グイイイ

えっ！
ちよっと外すって
股間のパイプだけ？
これなら寧ろ…

そのままの方が良かったか？

はははっ
やっぱりお前は
面白いな
そんなお前に「褒美だ
パイプじゃなく
本物を啜えさせてやるよ

おい玉城
ヤッて良いぞ

わりいなカレン
これも仕事なんだ
ちよっと
一発やらせてもらっせ

ちよ…ちよっと
なんであんだが…
あっ…あっ…嫌…
ちよ…ちよっと待って…

えっ…
いや…べ…別に
そんなわけじゃ…

はあ

はあ

はあ

たら～

あつ…あつ…嫌…ダメ…
あう…あはあん!

私…全然ノリ気何かじゃ…
あつ…ああ…

はあ

はあ

はあ

はあ

なんだよ
お前もノリ気じゃねーか
ちよっと申し訳なく思つて
損したぜ

そうとわかりや
ガンガンいくぜ

おい
お前らもこっちきめて
ヤッていくぜ

えっ!
ちよっと何…
まだ誰かいるの?

ズブツ

はぁ

はぁ

はぁ

じゅぷ

はぐう

むぎゅ...むぎゅ...むぎゅ...むぎゅ...

上も下も
しっかり頼むぜ
カレンさんよ

な...なんれ
わたひがこんな...

ズキュ

ズキュ

見るよ
こんなに後がつかえてんだ
もっとしっかり頼むぜ

よし お前ら
そろそろ一発
かましてやるっぜ

やら…
ひよつと…
やめへよ…

ほ…ほんなこと
ひわれても…
わらひ…あふ…あが…

はあ

はあ

はあ

はふ

ジュブ

ぬぷん

ぐちゅ

くわん

な…なんだ？
なんだかまた無性に
やりたくなってきたな

よし そんじゃもう一発
いや 何発でもいけそつだな
もう適当に
やりまくってやるぜ

ほらいくぜ
カレン！

は…ははっ…
どうなってんだ俺達…
本当にいくらヤッても
性欲が尽きねえ

あ…あふう…
お…おまんこ…もっろ…
もっろ…せいえき
らいすき…

ははっ…
カレンもまだ元気じゃねーか
俺たちも負けてらんねーな
気絶するまでやってやるぜ
ははっ…ははっ…

ズチュ

ズチュ

ハア

ハア

ハア

じゅわ

じゅわ

ハグ

終わったか
どうやらもう
このコンタクトはお前には
必要無いようだな

ヘアシリーストライク
それはその特性から考えて
自らがやりまくられるためのギアス
良かったな 願いが叶って

色々と面白かったよ
カレン

ピチャ
ピチャ

TURN 13

淫魔 と 魔女

カレン「久しぶりね、C. C. また正気の自分であなたに会えるとは思わなかったわ。」

C. C.「カレンが、力を制御しあの状態から脱したか。」

カレン「あなたには、どうしても私と一緒に堕ちてもらいたくてね。快樂の底から帰って来たのよ。」

C. C.「まさかお前がここまでギアスを制御出来るようになるとはな。」

カレン「ギアスの力は制御出来るようになったけど、心と体は制御不能のままよ。アソコにこんなものを入れてないと、まともでいられないくらいにね。」

C. C.「ほほう、それはまた面白いことになっているな。確か「覚えた快感は効果が解けても忘れはしない。」だったか？ はははっ、やはり最強だな。」

カレン「あんたはいつもそう…。気に入らないんだよ！ あんただけ、いつもそうやって何食わぬ顔をしてるのがね！」

カレン「だからさ、一緒に堕ちてよ！」

C. C.「！？ く…しまった…なんだこれは…」

カレン
これはお前の仕業か？

そうよ
あんたを捕えるために
しかけておいたのよ

あら
それはそつと
懐かしい服を着ているのね

いつものやつは
誰かさんせいで
クリーニング中だ

それは
ごめんなさいね

で
これからどうするつもりだ？
また男達でも
けしかけるつもりか？

同じ過ちは繰り返さないわ
あんたの相手はこいつよ

ギョッ

ギョイ

ひゅん



…なんだこの
気持ち悪いチーズくんは…

ぎゅん

気持ち悪い？
気持ち良いの間違いでしょっ？

これはね
チーズくん型自動オナーマシ
「黄王」よ あんたのために
ラクシャータさんに頼んで
作ってもらったの

さあ味わうと良いわ
文明の力というやつをね

ギョッ



ギジッ

じゅんじゅん...
じゅんじゅん...

はあ

はあ

はあ

じゅぶ
じゅぶ

ぐちゅ

ぐちゅ

あらそう
そんなに良いの
もうこんなに濡らしちゃって
相当気に入ったのね

でもね
まだこんなもんじゃないわよ
ターポモードに変えてあげるわ

ギジジジ



ギジジジツ

あぐ...あぐ...んがあ...
んんッ...

グイイイイ

はあ

はあ

グイイイ

ぐぶぐぶ

じゅぶぶぶぶ

ぐぢぢぢぢゅ

はははっ
最高でしょ?
ほらッって良いのよ
無様にイキなさい!

ギジジジ



んぐっ...んぐっ...んぐっ...
んーん...んーん...

はははははっ
あっという間に汁まみれね
良い様だわ
このままずっと
やり続けてあげるわ

く...流石にこれを
延々と続けられては
精神的にも持たんな...
止むを得ん
コード封印も兼ねて
しめて人の意識を
飛ばしておらんか

ギョギョッ

グイイイ

はふっ

はあ はあ

ぐぢぢ

グイイイ

ぐぢぢぢぢゅ

ピチャ

ピチャ

ギョギョッ

あ…あれ？
私…どうしてこんなところ？
あ…あなたは
私の新しいご主人様ですか？

はあ？
あんた何急に
寝ぼけたこと言ってるのよ
そんな芝居で私を
ごまかそうっていうわけ？

ピタッ

えっ？ あっ
はい
がんばります

なんだかわからないけど
痛いことなんてしないわ
気持ち良くさせてあげる
だけよ
さぁ続けるわよ

えっと…すみません
ごめんなさい
許してください
なんか私…気がついてたら
よくわからない状況で…
それでどうしていいかわからなくて…
至らなかつたことがあったら
次から直します
だから痛いことしないで…

キョトン



ぼたに〜

ギジッ

んっ...んぐ...
んん...んぐう!

グイイイ

ハア
ハアハア
はふっ

どう?
気持ち良いでしょうか?
このままずっと
やり続けてあげるわ

...は...はひ...
きもひいいわ...
あひがろこいまま...

グイイイ

ぐぢぢぢぢゅ

ぼたに〜

ギジッ

何たくらんでるか
知らないけど...
素直すぎて
なんか調子狂うわね
まあ良いわ
どうせこの道
正気が無くなるまで
やり続けるだけだしね

C. C. 「どうやら色々な意味で終わったようだな。ギアスという名の王の力は人を
孤独にする…お前の場合はどうだった？ カレン」